



「これからのモバイルハウス」

【課題趣旨】

モンゴル高原に住む遊牧民は、家畜の餌となる草を求めて移動するため「ゲル（パオ）」と呼ばれる移動式住居で暮らしています。最近では、太陽光発電や衛星放送を受信するアンテナなど加え、スマートフォンの普及率も高く、IT化が進んでいます。

車輪のついた住居といえば、現代では「トレーラーハウス」や「キャンピングカー」があります。これらは内部では、ガスや電気も利用できますし、水道や電話を引き込むこともできます。

ー昨年からの新型コロナウイルスの蔓延は、人間生活に数多くの変化をもたらしました。これまで近未来に起こるだろうと考えていたオンラインなどの非接触型の生活が、一気に現実となり人とのコミュニケーションの取り方にも変化が生まれました。その中、キャンプなどに人気が高まっています。その背景には、急速なITの発展によるデジタル疲れへの反動や自然志向の高まり、また2011年の東日本大震災以降の防災意識の高まりも後押ししています。

「トレーラーハウス」や「キャンピングカー」は、ますます設備を充実し住宅化してくると思われますが、はたしてそれが、ポストコロナ時代の移動式住居なのでしょうか？

今回の課題である“これからのモバイルハウス”は、生活環境や職場・学修環境の変化を考え、ニューノーマルというこれからライフスタイルがどのように展開するかを想定し、次世代の移動式住居を提案してください。創造性豊かな自由な発想を期待しています。

【応募期間】

2022年12月1日（木）～2023年1月31日（火）必着

【審査員】 今井弘（審査員長）、ものづくり大学 建設学科教員

主催： ものづくり大学

後援：（公社）全国工業高等学校長協会